

動物園からこんにちは

札幌市立伏見中学校
第2学年理科資料

こんにちは。動物園の「幅崎」です。2学期も始まり、中間テストや学校祭に向けての準備が始まった頃ですね。どちらもしっかりとした企画(計画)をたてることが成功のポイントです。動物園では秋の学習(行楽)シーズンへ向けての準備が進んでいます。観察力が身についた皆さんには、「ためになる施設」となっていることでしょうか。さて、今日は、「動物を飼う。」ということについてです。



猛きんに与えるエサを準備する朝倉キーパーです。手にはニワトリが丸ごと1羽。さすがプロです、慣れた手つきでザクザクと大きな包丁で切っていきます。からだの中からは卵の黄身だけが現れました。鳥類の卵は、産卵直前に「から」ができるので親の体内では、写真のように黄身だけが目立ちます。下の写真は、エサの



ひな鳥にビタミン剤を振りかける本田キーパーです。猛きん類は、消化できない羽根の部分をつき戻すので肉の部分に確実にまぶしていきます。どちらも通常の料理の風景と同じです。でもここで考えてほしいことがあります。これらエサの鳥たちの数日前の姿です。もしかすると、元



気に庭にいたニワトリかもしれないのです。いっしょに生活していたペットを殺して食べられますか。

さて、左の写真は、最大のウサギ、フレミッシュ・ジャイアント「チャイ」の在りし日の姿です。新ウサギ舎の準備で掘り起こした土から病気が発生し、命を落としてしまいました。ウサギ舎に掃除に行くと靴をかじってくるいたずら母さんでした。実は、この大きなウサギは、ヒトが肉や毛皮として



利用するのに都合良く改良したもののなのです。チャイは病気で命を落としたのですが、本来ならヒトが命を奪っていた生きものだったのです。家畜の歴史を調べても面白いレポートができますよ。

動物を飼ってみませんか。最近の住宅事情では少し難しい面もありますが、命のつながり(暖かさ)が感じられますよ。動物園や学校の動物ですとしょせん他人です。家族として動物を迎えることで得られることは大きいと思います。感じたことやわかったことは文章、スケッチ、デジカメなどで記録、学校にレポートしてくださいね。では、また。

遊び×学び＝動物園(学校)

この夏は宿題のスポットとして動物園を利用しましたが、本来であれば「遊びに行く」ところですね。でも、そこに行くことで「少しだけ賢くなれませんか？」それが、社会教育施設の特徴です。同じ理科系でも青少年科学館では、スタッフが仕組みだどりの展示が見られますが、動物園では動物の状態によっては、見られないことがあることが欠点です。でも、キーパーも知らない大発見ができるのも動物園の魅力ですよ。実は学校も同じなのです。最低限のことはどの学校のどの授業でも学べますが、大発見のためには皆さんの姿勢が大切なんです。